

文化庁月報

特集

世界へ向けた 現代舞台芸術の発信

【巻頭言】
現代舞台芸術の発展に向けて
遠藤 啓（文化庁文化部長）

【論文】
アーツプランの五年間
川本雄三

8
新国立劇場開場五年目を迎えて思うこと
海老澤敏

10
【解説】
芸術創造推進事業（アーツプラン21）について
文化庁文化部長 遠藤 啓
文化庁文化部長 遠藤 啓
文化庁文化部長 遠藤 啓

13
現代舞台芸術の発信拠点 新国立劇場
文化庁文化部長 遠藤 啓
文化庁文化部長 遠藤 啓
文化庁文化部長 遠藤 啓
インタビュー
新国立劇場バレエ団 石井潤さん、川村真樹さんに聞く
コラム 新国立劇場オペラ研修所研修生の感想

今月の表紙

新国立劇場
オペラ劇場

新国立劇場スポットライト / 45
九月の国立劇場 / 46
芸術文化振興基金ニュース / 47
9月号予告 / 編集後記 / 48

ACA NEWS

- 文化財の新指定(美術工芸品関係).....33
- 登録美術品の新たな登録について.....39
- 平成13年度(第5回)
文化庁メディア芸術祭について.....40

イベント案内

- 東京国立近代美術館フィルムセンター
1930年代日本の印刷デザイン
—大衆社会における伝達—.....41
- 京都国立近代美術館
京都の工芸 1945-2000年.....42
- 国立国際美術館
企画展 田中信太郎 —饒舌と沈黙のカノン—.....43
- 東京国立博物館
特集陳列
東京国立博物館コレクションの保存と修理.....44

連載

- Cross Road.....18
鶴賀若狭掾さん(新内節太夫)
新内伸三郎さん(新内節三味線方)
- ことばの万華鏡②.....水谷 修・22
人間関係か、明確な事実情報か
- IT時代のコンテンツの創造・発信と著作権⑤.....23
実効性の確保、円滑な利用の促進について②
～教育の充実について～
- まちに生きるミュージアム⑥.....東京都江戸東京博物館・24
来館者の立場に立った展示をめざして
—東京都江戸東京博物館の常設展示の改善—
- キーワード事典・アートマネジメント⑤.....小林真理・26
文化施設の機能としてのアウトリーチ(芸術文化普及活動)
- 保存修理の社会学⑤.....賀古唯義・28
活きた芝居小屋への再生
- 日本の伝統美と技を守る人々—選定保存技術保持者編⑤.....30
小林章男さん・小林平一さん
- 文化の現場から⑤
天然記念物のこれからを求めて.....花井正光・32

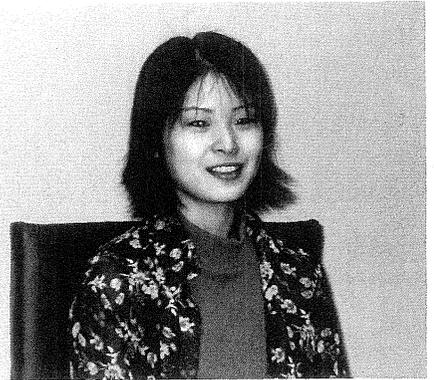
新国立劇場バレエ団

石井潤さん、川村真樹さん

に聞く



石井潤 / チャイコフスキー記念東京バレエ団を経て、69年には第1回モスクワ国際バレエコンクールで3位銅賞に輝いた。その後、スイス、ドイツのバレエ団でソリストとして活躍。83年に帰国し、各バレエ団に客演しながら、幅広い創作活動を続けている。新国立劇場では創設時からバレエ・マスターとして公演を支える一方、開場記念公演の創作委嘱作品『梵鐘の聲〜平家物語より〜』で、全舞バレエの創作の才能を発揮し、舞踊振付家の頂点でもある東京新聞・舞踊芸術賞を受賞した。また、1999/2000シリーズ『J-バレエ』では、「十二夜」を発表し好評を博した。



川村真樹 / 5歳より黒沢智子バレエスタジオで学ぶ。94年、こうべ全国舞踊コンクール、全日本バレエコンクール・ジュニアの部で第1位を受賞。95年、ローザンヌ国際バレエコンクールでスカラシップ賞を受賞し、ロイヤル・バレエ・スクールへ留学する。99年より、新国立劇場バレエ団・シーズン契約ダンサーとなる。石井潤振付「十二夜」では主役を踊り、好評を博した。

—新国立劇場バレエ団の現在の活動状況についてお聞かせください。

石井 今月末の公演「トリプル・ビル」(六月二日〜四日)のリハーサル中です。バレエ・マスター、バレエ・ミストレスの三人で、ダンサーに指導しています。私は主に男性ソリストの指導が多いのですが、特に明確な役割分担はしていません。

—日常的なレッスンはどのようにされていますか。

石井 週五日、毎朝二つのクラスに分けて指導しています。男性専用、女性専用のクラスが週三日、男女ソリスト専用、コール・ド・バレエ専用のクラスが週二日となっています。

—バレエ・マスターやバレエ・ミストレスが公演の企画に参画することはあるのですか。

石井 公演の企画は、(牧阿佐美芸術監督や劇場の制作部などで決定しますが、配役などについては意見を求められることもあります。

—昨年、石井さんが振付され、川村さん

が主役として出演された「十二夜」の感想は。

川村 役をいただいたときは、もうどうしようも、うれしいと言うよりも不安の方が大きかったですね。なかなか内面から出るものが薄くて……。

石井 彼女は(内面から出るもの)がた



石井潤振付「十二夜」 中央：川村真樹 ©瀬戸秀美

ぶんあると思うのだけど、性格がありませんからね。たぶん自信を持つと自然と出てきて変わってくるのではないのでしょうか。

川村 踊り終わってから、やっと自信ができるんです。遅いんですよ(笑)

石井 彼女をこの役に選んだのは、欲はないけど、無色で素直な部分が出せるのではないかと考えて抜擢しました。再演の機会があれば、手直しをしたと考えています。

—新国立劇場で公演できることについてはどのように感じていますか。

石井 いつも練習している舞台だから、いい意味でリラックスできます。劇場付きのバレエ団というのは今まで日本にはなかったですからね。貸し小屋を借りて一回きりの公演で緊張して練習通りできない悔しさに比べたらいいものです。

—みなさん公演前はごきごきされるものですか。

石井 公演前に気持ち悪くなる人もいます。私なんか、地震でも火事でもなつて劇場がだめにならないかと思っ

たいです。ステージに立てばもう大丈夫なのですが。

—川村さんがこのバレエ団に入っていることは。

川村 バレエ団に入って二年目ですが、やっととけこめて、時々仲間同士で飲み会とかもしますよ。ここではロシアスタイルを始め、いろいろなスタイルを勉強させてもらっています。

—普段の一日の活動は。

川村 午前は10時から11時15分までがレッスン、11時45分から午後二時くらいまで公演のリハーサルがあり、三〇分の休憩後、リハーサルの続きを五時三〇分ごろまでやって一日が終わります。

—話を聞いていますと、食事の時間がとれないんですけど、そのスタイルを維持されるのは大変でしょう。

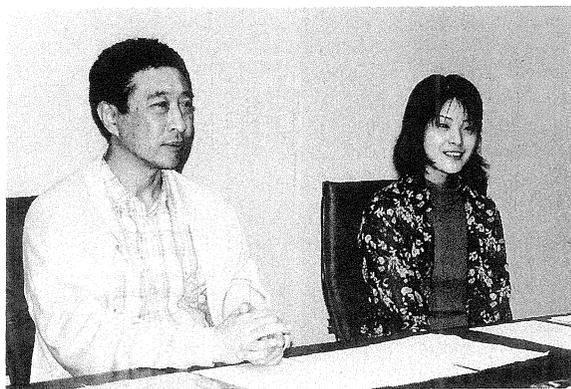
川村 気をつけるときは気をつけるし、だめなときはだめですね。

—毎日体重計にのって……。

川村 痛いな(笑)。

—ところで、日本のバレエについてはど

のように考えていますか。
石井 私の時代には、なぜ日本人がバレエをするのかと言われましたが、今はそんなこと言う人はいないと思います。「白鳥の湖」など西洋の作品であっても、海外の人が見たいのは西洋と同じスタイルではなく、日本人の感覚による日本のバレエなのです。



——日本では、幼いときから同じ先生が環境して指導し、それがバレエ団のカラーとなつていますが。

石井 日本のバレエは一言で言うところ「大人になりきれないバレエ」ですね。いつまでも、教師と生徒の関係なのです。もちろん師弟関係は悪いとは言いませんが、それでは仕事として一對一の自立した関係にはなれないのです。大人として存在する人が少ないように思いますし、教師も教え子をいつまでも子どものように見してしまうのはいけないと思います。

——川村さんは若手眞出身で地元の先生から指導されてきたと思いますが、新国立劇場での指導この違いは何か感じますか。

川村 基本的にはあまり違いはありませんね。ただ、「十二夜」のとき、クラシックバレエはビデオ等を見て参考にできるけど、創作バレエは人のまねができないので難しさを感じました。そこで、私は映画の「十二夜」を見せていただき研究しました。やはり、クラシックは好きですね。だけど、創作は踊る機会がとて少ないので、もっと挑戦してみたいです。

石井 クラシックの表現と創作の表現は基本的には一緒ですが、創作は身近なもの感情、自然の表現を出すことが必要で、本来ダンサーは両方できなければならぬと思います。創作をやった人がクラシックに戻ると、形にとらわれなくなり、人間の心に訴える幅広い表現ができるようになると思います。

——新国立劇場バレエ団が世界と肩を並べるには何が必要だと思いますか。

石井 以前より技術的には非常によくなつています。公演回数を増やせばよくなるという意見もありますが、いい公演を必ずやらなければという国立の劇場としてのメンツもあります。レパートリーになつていけば、再演される中で創られていくものと思いますが、それも含めて結局は歴史だと思えます。技術以上に、劇場の組織やスタッフを含め全てがうまく機能するにはもう少し時間がかかるものと思います。でもいつかきつと実現するものと思つていきます。

●インタビュー

中川俊宏・芸術文化課芸術文化調査官
郷家康徳・回線 企画調査係長

